

第49回・第4期第7回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 議事録	
開催日時	令和2年7月29日（水）18：30～19：50
開催場所	宝塚市立中央公民館 203・204学習室
次 第	1 開 会 2 議事録 協働のまちづくり促進委員会（第48回・第4期第6回）議事録 3 議事 （1）今後の取組について ア 議事及び部会について イ 各議事の具体的な審議内容について 4 その他 （1）今後の開催日程について 5 閉会
出席委員	久会長、足立委員、飯室委員、平原委員、加藤委員、喜多委員、松川委員、沖野委員、井山委員、田中委員、山口委員、檜垣委員、永崎委員、柴委員
開催形態	公開（傍聴人なし）

1 開会

事務局から、本日の出席者は14名、欠席者は5名であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していることを報告した。また、新たに委員として就任した柴委員からご挨拶をいただいた。

2 議事録

「協働のまちづくり促進委員会（第48回・第4期第6回）議事録」の内容が確認され、案のとおり議事録とすることが承認された。

3 議事

（1）今後の取組について

【議事及び部会について】

【各議事の具体的な審議内容について】

事務局より、今後検討が必要な議事及び部会の設置について配布資料に基づき説明を行った。意見の内容は以下のとおり。

ア（会長）協働の仕組みづくり検討部会、協働のマニュアル検討部会で検討してきたが、必ずしもこの部会名を踏襲しなければいけないわけではない。今年は4つの議事の中から2つ議事を選び、第一部会や第二部会などそれぞれの内容にふさわしい部会名を決めると良いのではないか。その点も含めて、今年度の進め方についてご

意見をいただきたい。「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」は第6次総合計画のスタートまでに整える緊急を要する議題であることから、急いで検討していく必要がある。また、「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」も以前よりご提案いただいていた内容なので組上に上げていかないといけない。一方で「協働のマニュアルの検証」については、2つの部会を動かしながら結果が見えてきた中でお知らせをするという意味合いでの時期をずらした部会設定もあるのではないかと。

イ（会長）「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」及び「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」を部会として検討を進めていくということが良いか。

ウ ご提案の内容が良いのではないかと。「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」は、この委員会が設置された時からのテーマである。他市の事例を参考にしながら、宝塚市がどう進めて行けば良いのかといったことについて検討してはどうか。また、「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」については、地域が出した計画を行政側がどのように受け止め実行し、まちづくり協議会側にフィードバックをするのかや、住民側が作った計画をどこで実行するかという議論がなされていないと感じるので、整理する必要があるのではないかと。平成16年に計画を策定した時は、具体的な取り組みについてコミュニティ組織とは別に立ち上げられたまちづくり部会が一括管理し1つずつ進めていったが、結果的にはあまり進んでいなかったようである。今後見直しを行う際には、新たな組織を作らず今ある部会や自治会等にフィードバックし、そこで実行したものを全体でコミュニティがまとめてはどうか。コミュニティ活動全体の中に落とし込んで、必要であれば新たに部会を設置し、行政と調整を進めてはどうかと考えている。地域が実行する際にどうしていくのかが、一つの大きなテーマではないかと考えている。行政側の仕組みだけができて、住民側が対応できない状況になる可能性がある。

エ 今年の3月に地域ごとのまちづくり計画が見直され、新しく発行されているはずである。計画の中身については、まちづくり協議会内で実行計画を立てた。計画はすでに出来上がっており、新たなまちづくり計画をどうやって実行させるかというところで地域は動き始めている。

オ（会長）地域側は地域ごとのまちづくり計画に基づきスタートを切り実行していく一方で、行政側は総合計画の中で基本計画や実施計画に基づいて進めていくこととしている。それが両輪となることで地域がより良くなっていくはずなので、その辺りについて計画レベルでは今のところ整合性が取れているが、実行レベルに入った時に両輪で動いていくのかをどのように検証していくのか、その仕組みが必要ではないかということである。

カ ここで記載されている検証するための仕組みは、見直すための仕組みではなく実行する中で検証していくための仕組みであると理解している。

キ 前回の反省を踏まえたなかで、それぞれの地域ごとのまちづくり計画と市の総合計画の両方をうまく回しながらどのように計画を実行していくかについて、前回は地域ごとのまちづくり計画が地域では検証できていたのかもしれないが、行政と関わる部分が検証できていなかった。そのため今回は、市の総合計画と地域ごとのまちづくり計画をすり合わせながら、総合計画の基本計画や実施計画と地域ごとのまちづくり計画はどこと結びついているのかを確認しどう進めていくのかを最初に話し合い、例えば3年が経過した段階でどこまで進んでいるのかを検証するといった仕組みについて検討してはどうか。

ク 地域ごとのまちづくり計画は、地域の将来像、基本目標、具体的な取り組みという3段階となっており、地域の将来像及び基本目標は市の総合計画に盛り込まれる。一方で市の総合計画も3段階となっており、一番下に実施計画がある。市の計画は1年ごとに見直しを行い3年間のローテーションとなっており、地域の計画は1年ごとに見直しを行い5年間のローテーションとなっている。いずれも1年ごとに見直すことになっているので、誰がどの部署と交渉するのかについて、どのように仕組みとして実行していくのかというすり合わせがないといけないので、地域と行政の両方側から仕組みを整えておかないと、計画を提出して終わりという状態になりかねない。

ケ（会長）この辺りが発展していけば、地域と行政の協働をどのように進めていくかにもつながっていくのではないかと。まちづくり計画策定の際には、地域担当次長が携わって一緒に策定してきたが、実施に当たって行政側は地域とどのような関係を持っていくのかしっかりと検討することで、初めて検証の仕組みが動いていくのではないかと。しっかりと検討していくことで地域と行政の関係がどう整理できるかが見えてくるのではないかと。

コ 我々のまちづくり計画には、今年度の4月から進めていく予定のものが多数ある。そのため、第6次総合計画がスタートするまでにというのではなく、すぐに何らかの体制が必要になる。我々の計画を行政と一緒に実行するには、市民協働推進課内に担当部署とうまくつなげてくれる職員がいれば良いのではないかと。現在、企画を充実させ実行計画を立てようとしているので、早く決めていきたい。

サ（会長）早急に決めていきたいが、行政側も様々なものを整理していかないといけない。例えば、総合計画を策定し市全体をマネジメントしているのは政策推進課であるが、一方で今日の会議に出席しているのは市民協働推進課である。どちらが市役所内の核になるのかを市役所側で調整していただかないといけない。また、地域の窓口はどこなのかという話もあるので、お互いに時間をかけしっかりと準備してくと長続きするのではないかと。尼崎市は6町村の合併により発足したが、現在も昔の支所である地域振興センターへ権限を移譲して、地域の協働は地域振興センター単位で行うこととしている。本庁だけで地域とつながるのではなく、その辺りも根本的に見直したようである。その辺りも含めて様々な検討が必要であるのではないかと。市役所側もどういう受け方をするのかという整理が必要であり、地域側も整理が必

要である。その辺りをしっかりと議論していけば、地域ごとのまちづくり計画の検証だけではなく様々なものが見えてくる部会となるのではないか。

シ 地域ごとのまちづくり計画を策定する中で、色々な役割をもった人や団体が中心となり進めてきたが、地域内で実行する主体を地域がそれぞれ振り分けることで、自分たちでやらなければいけないという意識も湧いてくるので、地域の活性化にもつながるのではないか。自治会でまとめたものについては、自治会が中心となって進めてはどうかと考えている。その受け皿を行政側でどうするのかをきちっと決めていくことで、宝塚市全体の計画がうまくいくのではないか。

ス（会長）市役所がどのような関係を持てば地域自治が進んでいくのかといった仕組みを作っていくということではないか。

セ うまく機能するような仕組みをすぐに作ることはできないと思うが、できあがった仕組みの動きが見えてくることで、地域ごとのまちづくり計画を核としてまちづくり協議会がどのように活動しているのか具体的に見えてくるのではないか。

ソ（会長）改めてまちづくり協議会を整理してみると、当初のまちづくり協議会の設計図は良くできているが、設計図どおりに運用できていない部分があるので、その辺りをもう一度改めて見直すことでうまくいくのではないか。この促進委員会委員の知恵を合わせれば、「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」の部会では色々なことが見えてくるのではないか。

タ 「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」を行う部会についてはどうか。

チ 現在、市から委託事業を受け活動しているが、NPO法人もしくは地域団体に委託している部署がまだまだ少ない。普通の企業に委託するようには動いていないのが現状である。市職員も慣れてきてはいるが、市民活動団体に委託したことがない部署についてはどのような団体と協働ができるのか、どのような事業を協働ですればよいのか、協働をするにはどういった手法で行えば良いのかが分からないのではないか。どのような団体と協働するのかについては様々な条件があると思うので、きちっと積み上げて整理することで、職員や市民が分かりやすいようなものを作ることができればと考えている。

ツ（会長）先進地の情報をうまく活用すれば効率的に作成できるのではないか。宝塚市としてどこまで取り入れられるかについては吟味していく必要があるが、すでに先進的な契約形態を動かしている市役所があるので、情報収集しながら一緒に検討していきたい。

テ 宝塚市では、NPO法人がまちづくりにどのような関わりを持っているのか、全体を整理したものが見えない。NPO法人がまちづくり協議会や地域ごとのまちづくり計画とどのように関わっているのかが見えない。まちづくり協議会側がNPO法人との関係でどのようなスタンスを取ればよいのか、整理しておく必要があるのではないか。

ト（会長）大阪市ではまちづくり協議会をNPO法人化し市から委託を受けている。

- その辺りを整理しながら進めていくと、様々なことが見えてくるのではないかと。
- ナ NPO法人自体が減少している状況もあるので、市内のNPO法人がどのくらいまちづくりと関わっているか整理していただければと思う。まちづくり協議会や自治会がNPO法人と同様に市と契約をするように進んでいけば良いまちづくりができるのではないかと。
- ニ NPO法人が行う活動をコミュニティの活動と一体化し、例えばNPO法人に対して資金を払うことについて、必要であればまちづくり協議会から提供することで、まちづくり協議会がNPO法人の活動に携わっていくことが分かるのではないかと。別々の組織が行なっているのではなく、できるだけ一体化できるような形の中で外部にPRしてはどうか。まちづくり協議会はNPO法人化していないが、うまくジョイントしながら、将来的にはまちづくり協議会をNPO法人化していくことも一つのステップとして考えられるのではないかと。
- ヌ 10年前、地域に児童館を立ち上げるため、3つのまちづくり協議会を母体とした運営協議会を設置し、現在も任意団体として指定管理を受けている。運営協議会設置の際にNPO法人化を検討したが、よく理解できずNPO法人化しなかった。3つのまちづくり協議会を母体とした任意団体をNPO法人化するのは非常に難しかった。これを機会に、NPO法人と市の契約についてだけでなく、NPO法人や社会福祉法人、社団法人などを含めたまちづくりとの関係について検討してはどうか。
- ネ (会長) 市が任意団体と契約する時に、市はそれぞれの団体とどのような関係性を結んでいるのか整理しておかないといけない。法に基づいている法人であれば、法人としての責任で動かし法人と契約している。任意団体の場合は団体と契約しているのではなく、団体の代表である人と契約している。その違いは何かが起こった時に非常に大きな違いとなってくる。市役所の中でもこれまで関係性を意識しながら契約してきたのかを整理しておかなければいけない。法人格とは何かそれに対して市はどのような関係を結んでいくのかは、両輪で考えていくと色々なことが見えてくるのではないかと。
- ノ (会長) 本日の会議では、「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」及び「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」を部会にする確認が取れたので、それぞれの部会をスタートする前にどのような議題で話し合っていけば良いかについて意見を出し合っている。
- ハ 「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組み」について検討する部会は、色々なことを方向性づける非常に重要な部会であると考えます。その1つの例が、地域ごとのまちづくり計画を推進していくことではないかと。
- ヒ (事務局) 「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組み」の議事はかなり大きな要素を含んでいる。地域ごとのまちづくり計画を推進していく仕組みは大きく言えば「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組み」の議事に入ってくるかとは思いますが、一方で「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みに

についての検証」は、緊急性が高い議題である。「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」は、促進委員会が始まった当初から出ていたテーマであり、2つの議事は重なる部分があるが、それぞれ並行して議論を進めていかなければいけないのではないかと考えている。

フ（会長） それでは、「市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みの検討」を検討する部会を「協働契約のあり方検討部会」、「地域ごとのまちづくり計画を協働で推進していく仕組みについての検証」を検討する部会を「まちづくり計画推進部会」としてはどうか。なお、市民活動団体等、様々な団体との協働やその仕組みについては横浜市がかなり進んでおり、「協働契約」という言い方をされているので、「協働契約のあり方検討部会」という言い方を絞った言い方をすれば、内容的にも絞って議論ができるのではないかと考えている。

へ 当地域のまちづくり計画は6月に完成しているが、各地域から出されたものを促進委員会が検証し様々なことに取り組んでいくのか。何のためにこれまで地域で計画を見直してきたのか。

ホ（会長） 計画の検証はそれぞれの地域で取り組んでいただく。一方で、行政はまちづくり計画の前半部分に記載されていることを受け取って、市の総合計画の中に盛り込んであるので、それに基づいて地域できちんと進んでいるかの検証は、地域と行政が実施しなければいけない。

マ 住みやすいまちをつくるためには、自分たちで検証すればよいのではないかと考えている。

ミ（会長） その検証を行政も一緒に取り組むことを宣言し、計画の見直しをしていただいた。

ム 何のためにまちづくり計画を見直したのか分からない。

メ 地域ごとのまちづくり計画の実行について、行政が関わるものについては、どのように関わるかがまだ決まっていないので、その仕組みを検討していこうというもの。

モ 20のまちづくり協議会で見直された計画を、この場に持ち寄り検証するのかと考えている。

ヤ 地域ごとのまちづくり計画を実現するために、まちづくり協議会が単独できるものもあれば、行政や他地域も絡めて話し合いが必要になるものもある。これから計画を実行するためにはどうすれば良いかを話し合い、進捗管理の仕組みを構築しておかないと計画のままで終わってしまう。この場で話し合っているのは、進捗管理のあり方についてである。

ユ（事務局） 配布資料に誤解を招く表現があったので訂正したい。参考部分に「地域ごとのまちづくり計画を検証する仕組みが必要ではないか」という記載があるが、これは地域ごとのまちづくり計画をもう一度見直すという話ではなく、地域の皆さんに見直していただいた計画をどう進めていくかという大きな仕組みについての検討という意味合いである。議事録の表現も正しい言葉に置き換える。

ヨ（会長） 指定管理のあり方が様々だと思うので、横並びにして一貫性があるのかと

うかを知りたい。地域が指定管理を受ける場合に、経費として指定管理料の1割から2割が支払われているのか。株式会社が受け取る額と地域コミュニティやNPO法人が受け取る額に大きな差があるのではないかと推測している。経費の渡し方や内訳、額の大きさを横並べにしたときに、本当にコミュニティやNPO法人が位置付いているかどうかというところが明らかになる。指定管理料を横並びにするだけでも様々なことが見えてくるのではないか。団体を成り立たせるための経費を上積みすることは難しい。株式会社は会社本体の人件費や運営経費を稼がない限り、直接経費だけでは成り立たない。NPO法人や地域コミュニティ側としても間接経費をもらえるような契約形態をとるべきだと考えている。その辺りの実態が宝塚市でどうなっているのかについて知りたい。団体や企業に許可をいただいたうえで、収支報告書を横並びにし検討してはどうか。

ワ（会長）2つの部会を設置することに決まったが、どの部会に所属するかについては後日改めて確認するということが良いか。

オ（事務局）事務局へお声掛けいただくか、すでにお決まりの方はこの場で挙手いただきたい。

ン（会長）後ほど参加することもできるので、今のところ参加を希望する部会に挙手いただきたい。手を挙げていただいた方は部会メンバーとして確定させていただく。

4 その他

（1）今後の開催日程について

事務局から、日程調整を行い取りまとめた結果について報告。次回以降の会議については、委員長と事務局で調整し部会開催日程を確定したうえで改めてご連絡する。

（2）委員から、「みんなの防災スイッチ便り」についての紹介。

（3）委員から、中山桜台小学校及び中山五月台小学校の統合を令和4年に延期することについての報告。

（4）委員から、「新型コロナの影響を受け地域内のイベントが中止となっているが、来年以降地域内のイベントが開催できればとの思いで自治会やまちづくり協議会で活動を行っている。来年以降イベントを開催できるよう新型コロナへの対策をしながら生活し、来年この場で開催する旨のご案内ができればと思っているので、その節は皆さんにご参加いただきたい」旨の発言。

5 閉会

以上